



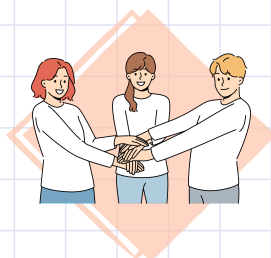
三谷学長より
新年の挨拶



謹賀新年

2026

明けましておめでとうございます。J-PEAKS事業に関して、今一度基本に立ち返り、その意味を考えてみたいと思います。この事業では、採択大学は強みを活かして戦略的経営を行い、他大学や国際的に連携し、社会実装の加速により、研究力強化のための環境整備を促進し、我が国の研究力を牽引する大学群の形成を目指す、とあります。最近世界の多くの大学を訪問する機会がありましたが、活気を持つ大学において共通に見られることは、大学の知的財産（IP）の価値を正しく認識し、保護・活用の戦略を立て、社会にインパクトを与えることによって還元される財を使って、基礎研究や教育にもバランスよく投資し、そこからさらに社会へのインパクトを生み出す研究成果と人材育成の好循環をもたらす経営戦略を持っています。この循環を意識して、大学の使命である、教育、研究、社会貢献を三位一体で本学の強みとして増強することが重要です。この好循環を意識してそれぞれに教育、研究、社会貢献に取り組むことによって、皆がJ-PEAKS事業に参画することができます。こうした理解を進めるために、現在学内での対話を進めてもらっています。皆さんからの関心と参加が事業の成功につながります。今年を飛躍の年に。



J-PEAKS

九州工業大学J-PEAKS事業の全体像(イメージ) 2025年度・2026年度版



J-PEAKS事業は2026年度2年目を迎えます。2027年度には中間評価が行われます。来年度 of 取組が評価に結びつきます。

図のとおり、申請時の事業計画では、2025、2026年度の2年間で、約27億円を投資。(うち、人への投資が6億円、設備投資が21億円)

26の事業を展開、22の成果指標の達成に道筋をつけ、イノベーション創出大学モデルの構築を目指していく計画となっています。

皆さんからの関心と参加が事業の成功につながります。未来をつくる『頼り』は、皆さんお一人、お一人との思いを込めて、本紙を「TAYORI」と名付けました。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

中間評価の概要等はこちら
日本学術振興会のウェブページへ



Announcement Board

- 12月10日 安浦サポーターとの第6回個別打ち合わせを行いました。
サイトビジットの振り返りと事業の進捗について意見交換を実施。
詳しくはこちら
経営戦略室 Xへ
- R8年度の交付請求(R8年度の事業計画)とR7年度の実施状況報告づくりが始まっています。
交付条件や様式はこちら
日本学術振興会のウェブページへ

現在、人事院では公務員の兼業制度見直しを検討しています。兼業できるようにすることで「職場の魅力アップ」「多様な経験の本業への活用」を狙っているようです。「越境人材が組織や社会を変える」と言われて久しいですが、大学人にとっても2026年は副業元年になりそうです。J-PEAKS事業は対面の会議が多いです。人と人が会うことを強制し大学間連携や越境人材の育成を狙っており(たぶん)、うまい仕組みだと感心します。私も最近、出張先で時間があれば、地元就職促進や町おこしなど地域イベントにも参加するようにしています。2026年は、たくさんの境界を超え、課題解決に貢献できる越境人材を目指します！

MIYAKE
リエゾン
のつぶやき...

